

タウン情報①

「大宮前新田」

宮前地域の事の話をする場合にまずは内田秀五郎翁の事をお伝えしなければと思います。

翁は大正15年に井荻町と言う名前になった時の町長でした。古老・有識者にお聞きしますと必ず「井荻町の大恩人だ」「杉並の先覚者だ」等の賛辞と共に「区画整理当時は目先の事しか考えず反対したり悪口を言った事を後悔している」と内田翁の苦闘を裏付ける話も聞きました。後に、彼の銅像が善福寺公園に建立されました。また、江戸幕府が江戸明歴大火の難民の為に名主・井口氏に対して開墾を命じたその土地を平等に分け与えた。ここを大宮前新田と名付けました。



三十二、内田秀五郎翁

内田秀五郎翁（昭和48年3月撮影）

タウン情報②

「全村の耕地を整理・道路を整備」

大正12年9月1日に発生した関東大震災の不景気な時に、この地域は武蔵野の典型的などかな村落でした。道は狭く曲がりくねり、急坂が多く、一雨降ると道はぬかるみになり歩くのが困難でした。この時期に西荻窪駅建設の話が鉄道省よりあり、大正11年7月に地元の協力の元、鉄道省へ駅の敷地430坪を寄付され西荻窪が開設されました。その時の式典の様子が久我山4丁目の信号からみることが出来たと父から聞きました。こんな状態の中ピンチをチャンスと捉え、全村の耕地を整理して道路を整備すれば、内田氏らの意見に賛同する者達は、道路が良くなれば農作業が楽になるし土地の利用効率が高くなるから減少分はカバー出来る・負担金は心配するなと夜通し説得会を何度となく開いているうちに、郊外の発展が目覚ましく、今のうちに道路の整備を拡張しなければ大変だと思い、全村区画整理を計画して提案をしたところ大変な騒ぎになりました。

タウン情報③

「村長をころせ」と、村役場に押しかけ計画の中止を申し出る者が多数いました。それから一年余り力者と共に反対者の説得に飛び廻り、ようやく地主の承諾をえました。そして、昭和3年に整然と区画整理され、他の方々も賛同して頂き、昭和7年に大体完成しました。問題は、換精算業務が大変な苦勞を伴いましたが、何とかして収めることが出来ました。

現在、青梅街道から以南の道路が碁盤の目状態になっているのは先人達の努力のお陰です。

森 泰樹著「杉並区史探訪」より抜粋

